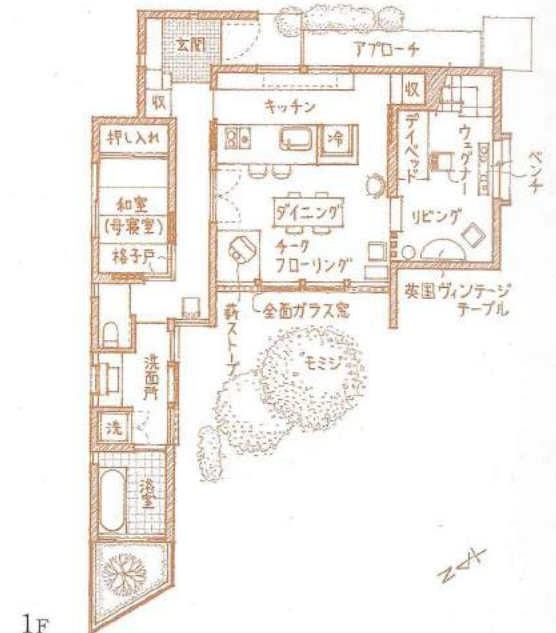
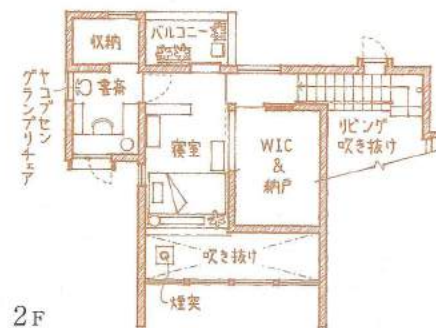


DATA

敷地面積 200.83㎡ (60.86 坪)
 延べ床面積 99.78㎡
 1F: 71.66㎡ 2F: 28.62㎡
 竣工 2013 年
 家族構成 本人、母
 設計 GA設計事務所 (玉木直人 + 服部真和)
 施工 柴木材店



好きなものに
 囲まれた
 至福の
 プライベートタイム
 自分時間

道路を隔て、森が広がる敷地。
 緑の風景をとり込んだ空間に、
 愛してやまないヴィンテージ家具、
 インドアグリーンをレイアウト。
 住まいは人なり。
 自分らしい生き方、すごし方を
 追い求めた答えがここにある。

(茨城県 S邸)

小さな家
 no.3

破壊するスリランカの建築・造園家、ジェフリー・パワの自邸を意識したリビング。ロッキングチェアはハンス・ウェグナーのJ16。

静かな寝室、手すりは低く
目覚めたら森が目に入る



書斎と隣り合う寝室は、1階ダイニングの吹き抜けに面する。森の緑が望めるよう、高さを抑え、繊細にデザインされた手すりをつける。



2階に小さな書斎。森のヤマザクラは春の開花も秋の紅葉も美しい。椅子は北歐家具の巨匠フィン・ユール作。スタンドはLE KLINT。



常緑樹が多い森を背景に、落葉樹の大モミジを庭に植栽。木製建具が額縁効果として、一面の緑を美しく切りとったダイニング。



1 キッチン是对面2列型。冷蔵庫はシンク左に隠す。この壁と背面カウンター収納棚はチーク桎目板張り。棚に ARABIA の食器や、近郊の益子・笠間の作家もの陶磁器。手前左はフィンランド、グンネル・ニューマンの貴重なガラスアート。2 週の半分は全国各地へ出張と多忙を極めるが、月に1~2回友人を招き、出張先の特産品などで手料理をふるまう。冬は薪ストーブも講理に活躍。3 オープンキッチンスタイルのレストランのよう。高窓にアブローチの緑 (P42 写真1) が覗く。



この椅子は誰のデザイン？
1つ1つ聞きたくなる



床は無垢チークフローリング。「経年変化が楽しみです」。テーブルもチーク材オーダーメイド。左の椅子はカイ・クリスチャンセン、正面奥はハンス・ウェグナー。

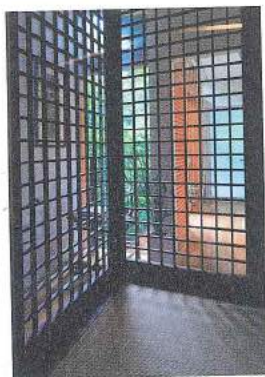
1 スDKの窓枠は米松ビラー材。部屋を分割した間取りと相まって、いつものピクチャーウィンドウで切り取られた緑の風景が、独自の世界を織り成している。

「先日、長年探していたボーエ・モーエンセンの椅子を、ヴィンテージ家具店のオーナーが届けてくださった。コーヒーを飲みながら会話を楽しんでいる時、『この家でくつろいでいると外に出たくなるんじゃない?』などと褒め言葉をいただきました」。

でもね、とSさんは言葉を続ける。「今もとても大切にしているのはグリーン。休日は植物たちの世話に明け暮れています。遊びに来た友人たちからは、『どの植物もイキイキしてる!』と驚かれます」。

今は出張が多く、ママに手入れができないので数を抑えているが、定年後はもっともっとグリーンを増やしたい。そして、植物好きの仲間を招いたり譲ったり、自宅をギャラリー風のボタニカルショップにできたら……。そんな夢ももっている。

「家づくりの時は予算上あきらめたところがあるので、将来ぜひ、2期工事に挑みたいですね」と目を輝かせる。未完の理想郷を投影する小さな住まいが、これからの生き方の舵とりをしてくれた。



1 奥に見えるのが玄関。緑のトンネルを抜けて我が家にたどり着く構想から、アプローチを長くとり、アオハダ、ヒメシヤラなど雑木を植栽。2 白一色の清潔な浴室。バスタブはドイツのメーカーKALDEWEI (カルデバイ)。外には扉で囲んだ小さなバスコート。緑生い茂る風景がここにも。3 2階に上がると廊下奥に椅子。書斎に置き、ドアを開けておく。「ヤコブセンのグランプリチェアです。欲しかった黒のウッドレックで、オーダーして数カ月待ちました」。4 1階廊下突きあたり、ガラス窓前には中国のアンティークチェア。5 廊下右手に、母が寝室としている和室。一度腰かけて入室できる動作を配慮し、床から40cm高く設ける。さらに繊細な格子の引き戸を合わせて建て込み、2方向から出入り可能。



「単

なる借景ではなく、樹木に埋もれ、森の中で暮らすような家にしたかったんです」。

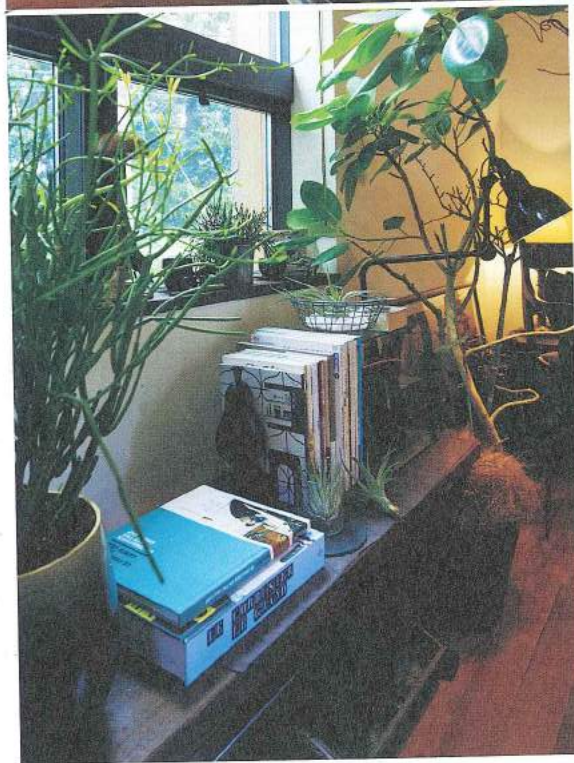
ダイニングに入ると、大窓いっぱい映る緑にまず圧倒される。さらに、大小の観葉植物や、北欧テイストの家具が配された空間にもため息。てっきりデザイナーなどクリエイティブワーカーの建主かと思いきや、東京・丸の内会社に勤めるサラリーマンだという。

40代後半で家づくりに挑んだSさん。「約30年目まぐるしい生活が続きましたが、50代を目前にして、これからは自分らしく心地よく過ごせる住まいが欲しい、と思うに至りました」。

Sさんにとって心地よい空間とは、自らの眼で集めた、好きなものに囲まれていること。確かに、住み手の美学で選び抜かれたさまざまなクラフト作品や蔵書が、手の届くところに置かれている。

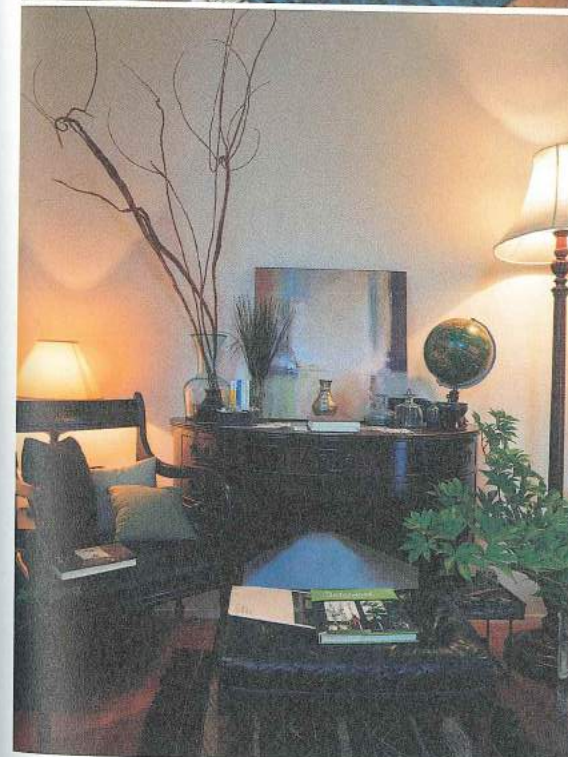
「家の規模も、1つ1つの部屋がそう広くないのも、ものと寄り添って暮らすにはジャストサイズですね」。

台形の敷地に建てられた、延べ床面積98㎡の変形住宅。1階にDK(15畳)、リビング(8畳)、和室(5畳)の3つの居室。2階に寝室(6畳)と書斎(2畳半)。すべての部屋から森の緑が望めるよう計画し、メインスベ



5	4
7	6

4 書斎の棚。上4段はカイ・クリスチャンセンのローズウッドユニットシェルフ。下のチェストは北欧ヴィンテージ。別々に買ったものを組み合わせ、1つの家具のように見せる。5 ダイニング窓辺。北欧ヴィンテージのネストテーブルとウェグナーの椅子 GE290。読書を楽しむ特等席。6 デイタールにこだわってつくったリビング内階段。光を通すガラス製品などを並べて。7 リビング窓辺。オーダーメイドのベンチを本棚代わりに。夜は、ヴィンテージ照明 GRAS のやわらかい明かりが広がる。



1 建築、アートなどの洋書が至るところに。アイアン脚のスツールは軽量で使い勝手がよく、本の置き場所にもちょうどいい。床のキリムは ROGOBA。2 2 階廊下、日当たりのよいバルコニー沿いに多肉植物の鉢。バルコニーには家庭菜園のプランター。「あとでこのパズルでバスタつくりますね」。3 リビングのコーナー。半円形のマホガニーテーブルは英国ヴィンテージ。設計時からここに置くことを決めていた。

1	
3	2

光や緑とともに
選り抜かれた
ものたちで
小さなコーナーづくり